

研 究 分 野	海洋構造	部 名	浅海環境部
研 究 課 題 名	浅海定線調査		
予 算 区 分	国補 (国 1/2)		
試験研究実施年度・研究期間	S. 47 ~ H. 19		
担 当	今井 美代子		
協 力 ・ 分 担 関 係	なし		

〈目的〉

本課題は、陸奥湾の海況の特徴や経年変動などを把握し、海況予報のための基礎資料を得ることを目的として実施し、本年度は継続 33 年目の調査年次であった。

〈試験研究方法〉

1 調査海域 陸奥湾内 St. 1~6 の 6 定点、湾口部 St. A, B の 2 定点、計 8 定点

2 調査回数 毎月 1 回

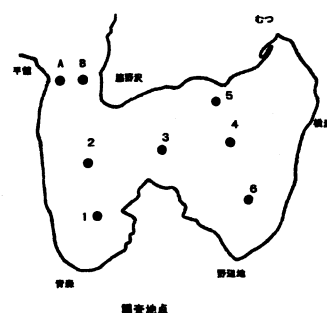
3 調査方法及び項目

①気象、海象 : 天気、雲量、気温、気圧、風向・風力、波浪

②水色、透明度

③水温、塩分 : 0m, 5m, 10m 以深は底層 (底上 2m) まで 10m 間隔

④溶存酸素量 : St. 1~6 の 20m 層、底層及び St. 2 と 4 の 5m 層



〈結果の概要・要約〉

2004 年の海況の特徴

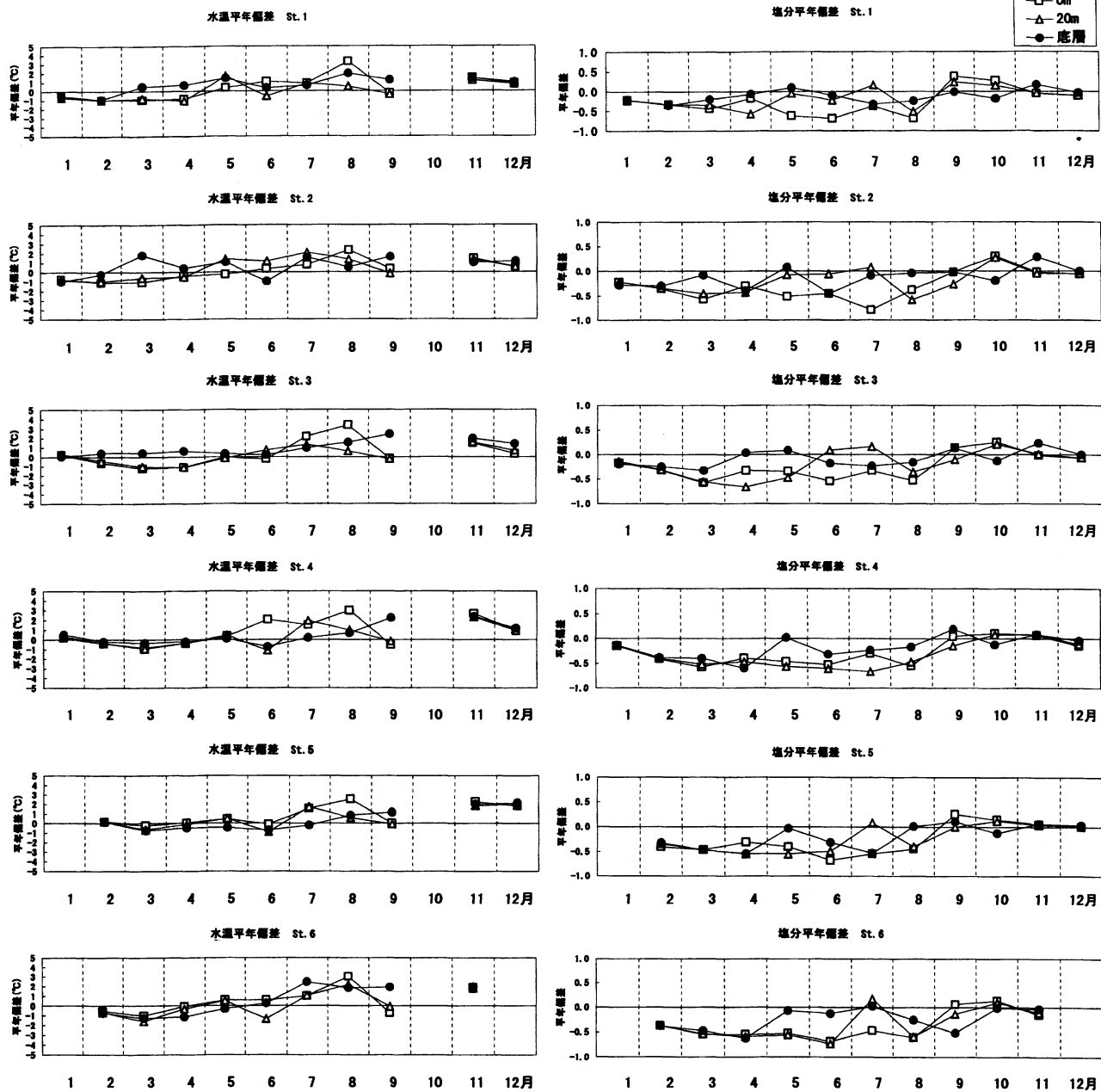
透明度の最低値は St. 1 の 6 月の 7.0m で、最高値は St. A の 2 月の 25.0m であった。

水温の最低値は、0m 層では湾口部の St. A, B で 4 月に、その他の St. 1~6 で 3 月に、20m 層では St. A で 4 月に、St. B で 2 月に、St. 1~6 で 3 月に、底層では St. A で 4 月に、St. B, 1 で 2 月に、St. 2~6 で 3 月に、それぞれみられた。湾全体の年間最低水温は、0m 層は St. 4, 5 の 3 月の 3.90℃、20m 層は St. 6 の 3 月の 3.32℃、底層は St. 5 の 3 月の 3.41℃であった。最高値は、0m 層では 8 月に、20m 層では 8, 9 月に、底層では 9 月にみられた。湾全体の年間最高水温は、0m 層では St. 4, 6 の 8 月の 26.30℃、20m 層では St. B の 8 月の 23.21℃、底層では St. 6 の 9 月の 21.48℃であった。水温の年間の推移は、平年に比べ、1 月は概ね平年並み、2, 3 月は平年並み~やや低め、4, 5 月は概ね平年並み、6 月は平年並み~やや低め、7 月は平年並み~やや高め、8 月は 10m 層以浅でやや高め~かなり高め、20m 層以深で平年並み~やや高め、9 月は 30m 層以浅で概ね平年並み、これより下層でやや高め、10 月は概ね平年並みであったと推測される (10 月の概況に示したとおり、観測が月末になったため、見かけ上平年より低めとなったと考えられる)、11 月はやや高め~かなり高め、12 月はやや高めであった。

塩分の年間の最低値は、0m 層では St. 6 の 6 月の 32.21、20m 層では St. 6 の 6 月の 32.42、底層では St. 6 の 4 月の 32.91 であった。年間の最高値は、0m 層では St. A の 7 月の 33.92、20m 層では St. A の 7 月の 34.02、底層では St. B の 9 月の 34.27 であった。塩分の年間の推移は、平年に比べ、1 月は概ね平年並み、2 月はやや低め、3 月はやや低め~かなり低め、4 月は概ね湾の上層でやや低め、下層でかなり低め、5 月は上層でやや低め~かなり低め、下層で概ね平年並み、6 月はやや低め~かなり低め、7 月は平年並み~かなり低め、8 月は 20m 層以浅でやや低め~かなり低め、30m 層以深で平年並み~やや低め、9, 10, 11 月は概ね平年並み、12 月は平年並みであった。

溶存酸素量は、20m 層では、St. 1 のみ 4 月に、その他の調査地点では 3 月に、底層では St. 2 のみ 4 月に、そのほかは 2 月または 3 月に年間最高となった。この後は低下傾向が続き、20m 層では 7~10 月に、底層では 8~11 月に年間最低となった。20m 層の最低値は St. 1 の 10 月の 7.38mg/l (飽和度 94.6%)、底層の最低値は St. 5 の 9 月の 5.88mg/l (飽和度 79.0%) で、底層でも St. 5 の 9 月のみ 6mg/l 未満となっていることから、水産用水基準記載の「底生生物の生息のために最低限維持しなければならない底層の溶存酸素量 4.3mg/l」を充分満たしており、2004 年は陸奥湾では、貧酸素状態はみられなかった。

〈主要成果の具体的なデータ〉



2004年の水温と塩分の年々偏差の推移(年々値は1972～2003年の平均値)

* 10月の水温年々偏差については、本文中に示したとおり、観測が月末になったため、実況を反映していないと考えられることから、削除した。

〈今後の問題点〉

冬期間に欠測が多く発生

〈次年度の具体的計画〉

調査の継続と特に成層期の溶存酸素量の監視強化

〈結果の発表・活用状況等〉

平成16年度資源管理体制・機能強化総合対策事業浅海定線調査結果報告書(陸奥湾)